

ジャパンプクリエィティブの 世界展開と未来への課題

2024年12月19日

アソビシステム株式会社
代表取締役社長 中川 悠介

01

アソビシステムの強み ～ジャパंकリエイティブの世界展開～

海外との強固なコネクションを武器に、ジャパंकリエイティブを世界へ広げる力

アソビシステムは「ジャパंकリエイティブ」を強みとし、KAWAII文化だけでなく、音楽、食文化、ファッションといった分野での新しい取り組みを展開しています。



アメリカのメジャーTV番組「Jimmy Kimmel Live!」に出演
現地で注目を浴びるAG!



名だたる海外フェスでの日本代表としての実績

- ・コーチェラ（アメリカ）
- ・プリマベーラ（スペイン）



ニューヨークでKAWAII文化と日本の食文化を融合した新たなアプローチ『SUSHIDELIC』

02

日本アーティスト が抱える課題

[海外進出を阻む課題]

①VISAの取得と費用問題

費用が高い上に取得が難しい。VISA発行が間に合わず渡航断念することもある。

②渡航費・宿泊費・滞在費の負担

アーティストやクリエイターにとって大きな障害。

③現地活動の「拠点不足」

滞在場所、活動場所が確保しづらい。

④PRやパブリシストの不在

現地で効果的にプロモーションできる人材が不足。同行スタッフ・マネジメントが現地PRとつながるのみで終わってしまい戦略的なPRができていない。

⑤現地とのコネクション不足

音楽業界や日本文化を理解し、横断的に判断できるスタッフが限られている。

03 解決策 ～現地拠点・人材育成・費用補助制度～

『海外拠点設置』『人材強化』『VISA取得・渡航宿泊滞在支援』『現地PR強化』を提案

提案内容	効果
<p>政府支援による「海外拠点」の設置</p> <p>① 各社が自由に使える活動拠点を海外主要都市に設置（例：ロサンゼルス、ニューヨーク、タイ、ロンドン、パリ）。</p>	<p>渡航・滞在コストを抑え、継続的な海外活動を支援。共同利用拠点により、複数企業・クリエイターが現地でのプロジェクトを円滑に実施。</p>
<p>海外と日本を知るプロデューサー人材の育成</p> <p>② プロジェクト費用、カルチャー、流行、政治的要素などを横断的に判断し、日本と海外のプロジェクトを推進する人材を育成。</p>	<p>プロデューサー人材の存在により、海外活動が戦略的かつ効率的に進行可能。</p>
<p>VISA取得・渡航費支援制度の強化</p> <p>③ 政府主導での手続き簡略化、費用補助を実施。</p>	<p>海外活動の際の「手続き負担」や「費用障壁」が軽減され、活動しやすい環境となる。</p>
<p>現地PRネットワークの構築</p> <p>④ 日本文化や音楽業界を理解し、現地のコネクションを築ける PR・パブリシスト体制の支援。</p>	<p>日本文化や音楽の認知度向上と現地市場での成功率アップが期待される。</p>

04

ジャパンプクリエイティブを世界へ ～政府への提言として～

[各提案の具体的な内容と目的]

**① 日本政府と民間企業の連携による
「共同利用型拠点」の設置**

- ・ 拠点機能として、オフィススペース、リハーサルスタジオ、滞在施設、イベントスペースを一体化した拠点。
- ・ エンタメ版JETROのような、日本文化に精通し現地業界とのコネクションを持つ「コンシェルジュ」的役割の人材を配置。現地イベントのセッティング、ネットワーキング支援、PR手続き代行。

**② プロデューサー人材の育成プログラム・
現地滞在に関する費用補助制度**

- ・ プログラム例：流行、マーケティング、政治背景などの学習。海外拠点に一定期間滞在し、実務経験を積む制度など。
- ・ 費用補助制度：航空券、宿泊費、生活費を支援。海外フェス・イベントへのプロデューサー人材同行を政府がサポート。現地言語対応に対する費用サポート。

③ VISA取得支援と渡航費補助

- ・ 政府が申請支援窓口を設置し、手続きを一元管理。
- ・ 特定の条件を満たすアーティスト・企業に対しVISA申請費用補助。
- ・ 日本のアーティスト、クリエイターが短期・長期滞在を行うための専用VISA制度を海外に対して働きかける。

④ 現地PR・コネクションネットワークの強化

- ・ 日本のPRチームと海外フェス・EXPOなどとのコネクション強化のため、日本からもPRチームを同行させ渡航宿泊費用の負担。
- ・ 海外音楽業界、イベント主催者、メディアと繋がる「クリエイティブ業界ネットワーク」を現地で構築。